


University of Shizuoka Magazine

 静岡県立大学広報誌

No.134

2017.March

はばたき

創立30周年
記念式典の開催
30周年記念事業
企画イベント

海外留学体験記
ロシアMGIMO
大学留学

研究室訪問
経営情報学部
国保研究室



CONTENTS

- p01 **創立30周年記念式典の開催**
・ 30周年記念事業 企画イベント
・ スーパーセミナー告知
- p05
・ 理系女子夢みっけ☆応援プロジェクトinしずおか
- p06 **CAMPUS TOPICS**
・ 映画『女を修理する男』上映会・公開講演会
・ 特別企画
「トランプ政権で世界はどう変わるのか」
・ グローバル地域センターワークショップ
・ 剣祭・橘花祭2016開催レポート
・ リレーフォーライフジャパン2016静岡
・ ホスピタル・プレイ・スペシャリスト養成講座開講式
・ バングラデシュのダッカ大学学長と接見
・ グローバル地域センター中国環境問題研究報告会
- p09 **海外留学体験記**
・ ロシアMGIMO大学留学
- p10
・ ポアジチ大学協定締結10周年記念
活躍する卒業生
・ 看護学研究科
- p11 **研究室訪問**
・ 経営情報学部 国保研究室
- p13
・ Japanology授業紹介
・ キャリア支援センターだより
- p14 **産学民官連携**
・ ムセイオン静岡セミナーなど
- p15
・ はばたき寄金からのお知らせ
- p16 **図書館だより**
・ 学生の学習環境整備/シリーズ 私の一冊の本
- p17
・ 国連広報センター 学生フォトコンテスト受賞
・ 岩崎ゼミ/笠原ゼミ 受賞
・ 受賞一覧/教員人事/奨学寄附金受け入れ



表紙写真:モニュメント下に集う学生たち

静岡県立大学 創立30周年

2016年11月8日、大講堂にて「静岡県立大学創立30周年記念式典」を開催し、招待者、本学学生、教職員および参加応募者が約800名参加しました。式典では、鬼頭 宏学長が「現在は、地域社会に厳しい時代となったが、地域の未来を担う人材を育てると共に、より高度な研究を通じて地域の発展のために貢献することを約束したい」と式辞を、本庶 佑理事長は「地域に根差しながら、世界に羽ばたく人材を育てるのが使命」と挨拶しました。

年記念式典の開催



創立30周年記念講演



創立30周年記念式典では、記念講演として、猪木武徳大阪大学名誉教授（サントリー学芸賞、紫綬褒章ほか多数受賞）を講師に迎え、「近代化社会と大学の未来」をテーマに講演を行いました。

記念レセプション



第2部として、式典と同日に、ホテルセンチュリー静岡にて記念レセプションを開催しました。本学教員、関係者が交流すると共に、教育・研究に関して情報交換を行いました。また、本学学生を対象に奨学金（給付）制度を設けている14の団体等へ、鬼頭学長から感謝状を贈呈しました。

創立30周年記念事業企画イベント(助成)

	事業名	主催	開催日時	場所
1	「30年後も健康で長生きする食事について考える」 (第3回薬食国際カンファレンス ジョイントシンポジウム)	第3回薬食国際カンファレンス 実行委員会	平成28年11月18日	日本平ホテル
2	県大での思い出写真でモザイクアート	剣祭実行委員会	平成28年10月29日、30日 (大学祭「剣祭」で展示)	静岡県立大学 正面玄関
3	静岡県立大学ビジネスセミナー 「静岡発! ブランドをつくらう」	経営情報イノベーション研究科附属 地域経営研究センター	平成28年11月3日	静岡県立大学 谷田キャンパス
4	ボアジチ大学交流10周年記念 「歴史的視点から見たトルコ外交の今」	大学院国際関係学研究科 広域ヨーロッパ研究センター (佐藤 真千子)	平成29年1月19日、20日	静岡県立大学 谷田キャンパス
5	地域・大学 健康交流 「県大を歩こう!! ノルディックウォークで健康づくり!」	「ふじのくに」みらい共育センター 広報委員会	平成28年11月6日、12月4日、 平成29年1月29日	静岡県立大学 谷田キャンパス
6	静岡県立大学「フードサイエンスネットワーク」 発足記念シンポジウム・交流会	静岡県立大学フードサイエンス事務局 (食品栄養科学部卒業生・大学院 修了生有志の会 代表:岩崎 有作)	平成28年11月5日	静岡県立大学 谷田キャンパス
7	保育シンポジウム「子ども・子育て支援制度 2年目ー改めて保育の質を考えるー」	短期大学部こども学科	平成28年12月3日	静岡県立大学 小鹿キャンパス
8	茶(ドリップ式包装)の作成 ー30年後も「お茶の県大」と印象付けるためにー	地域・産学連携推進室	配付中	
9	シンポジウム「男女共同参画で拓く大学の未来」	男女共同参画推進センター	平成29年3月3日	静岡県立大学 谷田キャンパス

10年後の静岡を創るスーパーセミナー

地域の産業および静岡生活圏のクオリティーの向上を目指し、10年後の地域産業の姿を発信するために、次のとおりセミナーを開催しています。

第5回	日 時: 4月8日(土) 14時00分～16時00分 場 所: 静岡商工会議所静岡事務所(静岡市葵区黒金町20-8) テーマ: 静岡発、ジェンダー平等社会～女性の活躍と社会的包摂の地域づくり
第6回	日 時: 5月6日(土) 14時00分～16時00分 場 所: しずぎんホールユーフォニア(静岡市葵区追手町1-13) テーマ: 旅人来りて日く、廁所在哪里?(トイレはどこですか?)～観光と海外展開
第7回	日 時: 6月17日(土) 14時00分～16時00分 場 所: 静岡県立大学 谷田キャンパス テーマ: 何歳まで生きていきたいですか?～医療・介護 特別講演: 静岡県立大学法人理事長 本庶 佑

※講師については、本学のホームページ上で順次お知らせします。



はがき、Eメール、申込フォーム(右記QRコード)から、①郵便番号 ②住所 ③氏名(フリガナ) ④電話番号 ⑤参加希望回を明記の上、お申し込みください。(各回先着200名)



送付先 | 〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1
静岡県立大学広報・企画室「スーパーセミナー」係
Eメール: 30kinen-seminar@u-shizuoka-ken.ac.jp

2 30周年記念モザイクアート

開学30周年記念を大いに盛り上げるため、学生団体の剣祭実行委員会が「県立大学の思い出写真」をテーマにモザイクアートの作成を企画しました。県立大にまつわる思い出写真を募集した結果、1030点の写真が集結しました。



3 静岡県立大学ビジネスセミナー 静岡発! ブランドをつくろう



地域経営研究センター主催で、ビジネスセミナーを開催しました。まず、岩崎邦彦センター長が「モノづくりを超えるブランドづくりへ」とテーマ提起する

中で、強いブランドづくりに欠かせない条件を紹介しました。続いて、高糖度トマト「アメーラ」を生産する(株)サンファーマーズの稲吉正博社長、かつおぶしチップス「バリ勝男クン。」を製造するシーラック(株)の望月洋平社長の講演が行われ、最後に3氏によるパネルディスカッションで議論を深めました。強いブランドづくりに成功している両社の共通点として、品質の高さ、ネーミングの妙、ぶれない軸、前向きの姿勢が示されました。

6 静岡県立大学 「フードサイエンスネットワーク」 発足記念シンポジウム・交流会



食品栄養科学部卒業生・大学院修了生の企画によるシンポジウムおよび交流会を開催しました。約150名の食品栄養科学部・大学院の卒業生、修了生、

在學生、現旧教員が参加し、食品栄養科学部のこれまでの研究史、現在及び未来の構想について現旧教員による講演が行われました。さらに現在研究分野で活躍している卒業・修了生から、現在の研究及び食品栄養科学分野の未来についての発表がありました。交流会では、参加者の親睦を深めるとともに、本学部から発信された、未来の「食と栄養・健康の科学」の更なる発展を目指した意見交換が行われました。



理系女子夢みつけ☆ 応援プロジェクト in しずおか

国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) が募集した女子中高生の理系進路選択支援プログラムに「理系女子夢みつけ☆応援プロジェクト in しずおか」が採択されました (事業期間平成28～29年度)。この事業は、女子中高生の理系への進路選択を支援することを目的としています。女子中高生の

興味・関心を高めて理系分野へ進むことを促すため、科学技術分野の第一線で活躍する女性たちとの交流会・実験教室・出前授業の開催を支援します。今回採択された企画は静岡県立大学と静岡大学が共同提案したもので、静岡科学館る・く・る、ふじのくに地球環境史ミュージアムの2機関が協力・連

携して2年間実施するものです。平成28年度、本学では、県内女子中高生の参加を歓迎し、I夏の体験実験 in 県大、II ふじのくに地球環境史ミュージアムでの合宿体験、III 女性資格取得者講演会を開催しました。



I 8月17日開催

夏の体験実験 in 県大

文系、理系の進路選択前の中学1年～高校1年までの139名の女子生徒と保護者75名が参加しました。県大の10研究室が、植物の香り成分の測定、遺伝子の不思議、食べ物のおいしさの数量化などのテーマで体験実験を行いました。女性教員や女子大学生との交流を通じて、理系のイメージを深め、理系への進学意欲を高める貴重な機会となりました。アンケートでは、生徒からは、「今までは文系に進みたいと考えていたけど、今回の取り組みで理系の内容にも興味をもてた」、「難しいことばかりを研究するのではなく、自分たちの身の回りのことについて実験をしていて、自分にも少しできる気がした」、「理系を目指している女子はたくさんいるとわかり、がんばらないといけないと思った」、「理系学部には所属する女性の方と話すことができ、かっこいいと思ったし、願望も生まれた」など理系進学に前向きな感想がたくさんありました。保護者からも「学生さんがとても積極的に楽しそうに活動していた」、「楽しく実験する姿を見て理系のほうが向いていると思った」など娘の理系進学に対して積極的な意見が多数聞かれました。



体験実験の様子

II 10月1日～2日開催

ふじのくに地球環境史ミュージアムでの合宿体験

昨年4月にオープンした「ふじのくに地球環境史ミュージアム」にて理系学問の応用現場を広く紹介することを目的に合宿体験を実施しました。県内各地から12名の中学生と高校生の女子生徒が参加し、ミュージアムの研究員および県立大の教員の補助のもと、博物館の仕事体験、自然観察、三保の松原での投げ網、標本作成、星空ウォッチングなどを1泊2日の泊まり込みで体験しました。参加した生徒たちは、新たな発見の連続に目を輝かせていました。アンケートには「普段は見えない世界が観察できた」「科学で生まれた疑問は科学で解決するということが学べた」「他の学校の人たちと仲良くなれた」など、合宿ならではの感想が多く寄せられました。



ミュージアム合宿参加者



三保の松原での投げ網体験

III 11月19日午後開催

女性資格取得者講演会

中学生と高校生を対象に、気象予報士、薬剤師、環境計量士、管理栄養士による講演会を開催しました。理系学部に入学者として取得可能な多様な資格を紹介するとともに、理系進学の内容や特徴、就職先や試験勉強法を紹介しました。参加者は中高生56名と保護者35名でした。また、第2部では参加生徒と講師の座談会、および参加した保護者と大学教員 (資格保持者) との座談会を開催しました。アンケートの回答には「管理栄養士だけに興味を持っていたのですが、座談会でさまざまな職業の方のお話を聞けてとてもためになりました」、「知らなかった仕事内容が分かり、これからの職業選択に役立てることができる」などの感想が寄せられ、理系資格の魅力を発信できました。



生徒と講演者の座談会

映画『女を修理する男』上映会・公開講演会

10月24日、立教大学特任准教授・「コンゴの性暴力と紛争を考える会」代表者として活動されている米川正子先生をお招きし、「なぜコンゴ東部は『世界のレイプの中心地』と呼ばれているのか」と題した公開講演会を開きました。性暴力がなぜ有用性の高い攻撃手段として使用されるのか、被害者とその家族やコミュニティ全体へ与える肉体的・精神的な破壊力についてご説明いただき、性暴力の恐ろしさについて認識を深める貴重な投げかけをしていただきました。また、紛争鉱物やグ

ローバル戦争経済との根深い関係性も交えながら、悲劇的な事実についてご説明いただきました。

同日の夕方には映画『女を修理する男』上映会を開きました。コンゴ東部で繰り返されている性暴力を受けた生存者を献身的に治療する婦人科医のデニムクウェグ氏の姿、生存者の衝撃的な証言、加害者の不処罰の問題、希望に向かって再生する女性たち、そして、こうした悲劇の背景には、私たちの日常生活で使用されている電子機器の製造に必要と

なる鉱物をめぐる経済的な争いが存在する事実など、決して他人事ではない現実が、映像と共に映し出されました。上映会・公開講演会に来場した参加者にとって、各々が静かにこれらの現実に向き合うきっかけとなったにちがいありません。



特別企画パネルディスカッション「トランプ政権で世界はどう変わるのか」

アメリカのトランプ大統領の就任式を翌日に控えた1月19日、国際関係学部の国際政治経済コースの教師陣6名による「トランプ政権で世界はどう変わるのか」と題した特別講義およびパネルディスカッションを開催しました。「トランプ政権への不安」をテーマにした佐藤真千子講師は、米シンクタンク関係者や米国民の声を踏まえ、不支持率の高さについて「ツイッターや暴言などにより、米大統領として不可欠であるはずの人格的権威に国民の不安や疑いの目が向けられているのでは」と話しました。宮崎晋生講師はトランプ氏のキャリアを解説し「不動産業者としての成功イ

コール優れた経営手腕と言えるのか」と疑問を投げかけました。小窪千早講師は、移民やマイノリティ等に対する「価値観の共有」という観点から、今後予想される欧米関係の変化について、坂巻静佳講師は今後のトランプ政権により、米が関わる国際協定等にどのような影響が生じうるかを示しました。石川義道講師は、これまでのトランプ氏の発言から貿易等の通商体制が変化することで世界経済に与える影響を解説しました。飯野光浩講師はTPPに対するトランプ氏の主張から垣間見える今後の世界経済の見通しについて述べました。

講義の最後にはパネルディスカッションを行い、「安倍政権の外交政策は」、「NATOの変容は」などの参加者からの質問に、教員6人が国際法や経営論、外交などそれぞれの分野からトランプ政権に対する考察を繰り返しました。参加した同学部の学生約60名は、混迷する世界情勢の今後の見通しに危機感を持って耳を傾けていました。



グローバル地域センターワークショップ「南海トラフ地震の予測に必要な観測・研究は何か」

グローバル地域センター地震予知部門（総括：楠城一嘉特任准教授）では、2月1日、ワークショップ「南海トラフ地震の予測に必要な観測・研究は何か」を開催しました。

昨年4月に新設された同部門は、本県のリスク軽減のために、地震予知を目指す幅広い分野の研究を開始しました。このワークショップは地震予知部門が主催する初めての行事となりました。

当日、研究者に加えて県内の地方公共団体・企業の防災担当者、防災関係のNPO団体、報道機関から約100人が参加しました。

ワークショップは、鬼頭宏学長の開会挨拶からはじまり、外岡達朗静岡県危機管理監に来賓挨拶をいただきました。その後、県内外の研究機関と米国カーネギー研究所の計12名の研究者から講演がありました。その中で、地震防災対策強化地域判定会会長等を務める平田直東京大学教授の招待講演では、南海トラフ地震に関する国の動向や最新の研究成果を踏まえて、南海トラフ地震の予測へ向けた研究力の向上が重要であると提言がありました。

また、パネルディスカッションでは、参加者と講演者の間で意見交換も行いました。

このワークショップを踏まえ、今後は静岡県立大学が中心となり、県内外の研究機関と連携して、地震予知研究を推進していきます。

これからも、グローバル地域センター地震予知部門は、地震防災に関するワークショップ等を随時開催する予定です。



パネルディスカッションの様子

■ 剣祭・橘花祭2016開催レポート

● 剣祭

10月29日(土) 30日(日)の2日に渡り、谷田キャンパスでは「一期一宴」をテーマに掲げ、第30回剣祭を開催しました。キャンパスロードは数多くの模擬店でにぎわい、ダンスや楽器演奏の披露、ミス&ミスターコンテストや毎年人気のお化け屋敷といった企画に加え、展示や研究室解放など、多くの学生活動の成果を発表する場を設けました。

● 橘花祭

11月12日(土) 13日(日)、短期大学部が小鹿に校舎を移転し、20回目の橘花祭を開催しました。看護学科の閉学

科により学生数は減少したものの、こども学科が新設され、新体制スタートの意味で「INNOVATION」をテーマにしました。

男装女装コンテストやクイズ大会、バンド演奏、学科展示といった企画だけでなく、入試相談会、同窓会、ホームカミングデイ、後援会講話会などの開催により、受験生や父兄、卒業生、地域の方など例年以上に多くの方が来場され、賑やかな雰囲気となりました。

両大学祭とも、学生と地域の方々が深く関わり、両キャンパスの魅力を存分に楽しむことができる4日間となりました。



剣祭のモニュメント下での音楽ライブ



クイズ大会を開催した学生会メンバー

■ リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016 静岡 一命をたたえ、こどもたちの輝く未来にー



リレーウォーク

9月10日(土)、11日(日)、がん患者・家族支援チャリティイベント「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016静岡」が本学との共催のもと芝生園地で開催されました。リレー・フォー・ライフはがん患者やがん経験者、その家族を支援するとともに、がんには負けない社会と絆を築くための啓発イベントとして世界25カ国で開催されています。第4回目となった本大会には、29チーム(県大関係3チーム)が参加し、おおよそ110人のサバイバー(がん患者)を含む総勢1600人が集い、本学からも150人

を超す関係者が参加しました。

青空のもとオープニングは大学の近隣にある有度幼稚園の園児による元気いっぱい踊りと歌でスタートし、本学の鬼頭学長及び合田「ふじのくに」みらい共育センター長の開会の挨拶に続き、参加者の大きな拍手の中、吹奏楽の奏でる曲に合わせてサバイバーラップが始まりました。それに続き、参加チームの紹介が行われ、リレーウォークが開始されました。ステージ上では吹奏楽やダンス、ジャグリング等のパフォーマンスが行われ、チームテント内では趣向を凝らした催しや募金活動が行われました。

夕方になると、多くの思いが綴られた1500を超すルミナリエに灯が灯り、会場の中央には「HOPE」の文字がくっきり映し出され、天国に旅だった仲間を偲ぶとともに、がんには負けない社会を築く大切さを参加者一同が共有しました。静かになった夜には、オール

ナイトシアターを楽しみ、テントの中で語り合い、リレーをつなぐ人々がルミナリエをゆっくり読みながら歩き続けました。

翌日の日曜日にも快晴に恵まれ、朝の体操を始める頃には、散歩を日課としている近隣の方々も会場に集いました。予定していたステージ上のパフォーマンスも計画通りに進み、最後の一周は参加者全員が共にグラウンドを歩き、無事2日間の日程を終了しました。

なお、2日間の様子は経営情報学部の渡邊貴之准教授等の協力により、県大テレビで紹介されました。



ルミナリエにより映し出された「HOPE」

■ 短期大学部HPS養成講座開講式とHPSの取り組み

①静岡県立大学創立30周年記念事業

平成28年度静岡県立大学短期大学部
ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)
養成講座開講式

10月31日(月)、HPS養成講座12クールが開講しました。今年度は、男性3名、女性9名の方が全国各地から受講されています。

②タケダ・ウェルビーイング・プログラム2015

ホスピタル・プレイによる在宅支援システムの構築

本学が開催するホスピタル・プレイ・スペシャリスト養成社会人講座修了生が設立したNPO法人は、タケダ・ウェルビーイングプログラム2015の助成を受けて、現在、

医療的ケアを必要としながらも在宅で生活する静岡市内の子どもたち(2歳から15歳)15名に、在宅支援を届ける活動をしています。遊びを通して重たい障害を持つ子どもたちの親が、患者としての子どもではなく、子どもとしての子どもと出会うことが可能になることを感じています。

10月24日(月)に静岡県立子ども病院にて『すべての子どもの遊びを支えるために 第1回シンポジウム』を開催しました。当日は、英国ノッティンガム子ども病院HPSのClaire Hardy先生による基調講演『英国におけるホスピタル・プレイと在宅支援』について講演いただきました。その後、『在

宅で生活する病気や障害のある子どもたちの遊びを支えるために、多職種連携でできること』をテーマに意見交換が行なわれました。68名の参加があり、在宅で過ごす子どもと家族を支えるために多職種がとなり、連携することの必要性を実感できる有意義なシンポジウムとなりました。



「すべての子どもの遊びを支えるために第1回シンポジウム」(静岡県立子ども病院)の様子

■ バングラデシュのダッカ大学学長と接見

食品栄養科学部環境生命科学科の助教3名(内藤博敬助教、三宅祐一助教、徳村雅弘特任助教)は、ダッカ大学より招聘を受けて12月23日から28日まで、バングラデシュを訪問してきました。ダッカ大学では、地球環境科学部海洋学科の学生さんを対象に「Development of wastewater treatment process using iron(徳村)」、「Halogenated Polycyclic Aromatic Hydrocarbons in Soil and River Sediment from E-waste Recycling Sites in Vietnam(三宅)」、「Seawater sterilization for infection

risk reduction of Giant tiger prawn aquaculture in Vietnam. (内藤)」以上の講演を行い、質疑応答、意見交換も活発に行いました。その後、Dr. AAMS Arefin Siddique 学長と面会し、末永く研究協力していく旨のお話をいただき、記念の盾を頂戴しました。また、ダッカの南東に位置するCOX's Bazarへ移動し、来夏開所・稼働予定のNational Oceanographic Research Instituteを訪問しました。開所後、世界中から研究者が派遣される予定であり、我々にも門戸を開いてくださるとのこと、次年度からの

共同研究テーマを検討しています。バングラデシュはウシエビ養殖が盛んで、COX's Bazarには多くの稚エビ孵化場が点在しており、我々も数か所訪問させていただきました。今後、海洋汚染問題の解決、世界中で蔓延している養殖魚介類の感染症対策を中心に、ダッカ大学との研究提携を目指します。



■ グローバル地域センター中国環境問題研究報告会を開催

グローバル地域センターでは、1月20日、グランシップ会議ホールにて、中国環境問題研究報告会「どうなる中国の環境問題・経済発展と環境保全のジレンマ」を開催しました。

当センターでは、本学教員を中心に民間のシンクタンク、企業・団体等の参画を得て、平成26年11月、中国環境問題研究会(代表:柯隆特任教授)を立ち上げ、中国の環境問題の現状を把握し、改善に向けた日中協力のあり方を政策提言するための調査研究を行ってきました。今回、研究成果を地域に還元するべく、県民向けの報告会を行ったものです。

柯隆特任教授による発表「中国の経済発展と環境問題」を皮切りに、食品栄養科学部坂田昌弘教授が水問題、雨谷敬史准教授が大気汚染、経営情報学部尹大栄教授が対中環境ビジネス、富士通総研の趙璋琳氏が環境NGO・NPOについて発表しました。発表者からは、環境の改善に向け、情報公開、司法制度の強化、NGO・NPOによる市民活動、企業のコンプライアンス、国民の環境意識等の重要性が指摘されました。

さらに、北京で環境ビジネスに携わる佐野史明氏を特別にお招きして御講演いただき、中国の環境ビジネスへ参入を考える

県内企業にとり、有益なお話を伺うことができました。

当日は県内外の企業や研究者、学生、一般県民等約230名が参加し、会場から多くの質問があるなど、関心の高さが伺われました。

当センターでは今後も県民の皆様有意義な調査研究の充実を図っていきます。



総合討論の様子



モスクワ国際関係大学 (MGIMO) はロシア外務省附属の大学であり、外交や対外経済関係、国際ジャーナリズムなどの分野に多くの人材を輩出してきた、ロシアではトップクラスの大学です。本学とMGIMOは交換留学協定に従い、毎年2名を上限として互いの学生を派遣しています。留学期間は3か月(2名の場合)もしくは6か月(1名の場合)で、留学中の学費や寮費は無料です。例年1月に次年度の派遣学生の募集を行っています。

※学年は2017年3月現在

モスクワでの暮らし

国際関係学部 国際関係学科3年 芦澤 涼夏さん

ロシアの首都、モスクワにあるモスクワ国際関係大学に行ってきました。自分にとっては初めての海外長期滞在でした。しかし3か月という比較的限られた期間でしたので、時間を有効活用しよう!という意識のもと濃密な時間を過ごせたと思います。

留学生活の中心は大学の授業とロシア語の講義でした。平日は毎日3~5時間程度、様々な国から来た留学生とともに少人数クラスで勉強します。さながら高校のクラスメイトのような気分で、帰国の際はさびしい思いをしました。彼らと一緒に毎日の授業と課題をこなし、寮生活だったので自炊をして(ちなみに食料品とたばこの価格は驚くほど安いです)、週末は美術館やモスクワならではの観光地に出掛け

たりしていると結構忙しく、倒れるように眠る日も少なくありませんでした。そのような毎日の中、窓の外に降る雪と灰色のマンション群を眺め、昼夜絶えず続く工事現場の音を聞いていると、ロシアとロシア人の暮らしのこと、そしてそれと比較した自分と私たちの生き方について考えずにはいられませんでしたが、日本で普通に暮らしていると埋もれてしまうようなことを改めて考えられたことは、私にとっての収穫であったと思います。

そういうわけで「楽しかった?」と聞かれると、すこし困ってしまいます。確かにとても楽しかったのですが、ただひとくちに楽しかったという言葉では纏められないような、そんな留学生活でした。



友人の誕生日パーティー。モスクワはなかなか夜が長い。



街で知り合った友達と。冬場は公園がスケート場に。

積極的に行動すること

国際関係学部 国際言語文化学科3年 瀬之口 夢知さん

現地で言語を学ぶ最大の利点は、コミュニケーションをいつでもできる状況に自分の身が置かれていることです。私は、会話は考えを口から出すことが最も重要であるため、自ら行動することが学習、文化理解の近道であると考えています。街を散歩する際にも様々な人と話をすることを最大の楽しみとしていましたが、そうして聞いた話し方も、自分の学習においてとても役立ちました。授業は練習問題や読解を通じた会話中心の形式で進み、短い時間で考えを述べる必要性により構文能力が向上したと感じました。日本で格変化に対して感じていた苦手意識も、会話の楽しさからいつの間にか消えていました。また、日本語クラブと軽音楽部に参加し、たくさ

んの生徒と関わることにより、文化面においても理解を深めることができました。大学や寮以外でも、出会う全ての人々が親切心に溢れています。日頃から些細なことであっても互いの心を思いやり、初対面でも家族のように温かく声を掛け合って行動していることなど、日本で日常的にはあまり見ることのできないことがたくさんありました。また美術館や文化施設周辺では、気候、老若男女問わず、早朝から楽しみに展覧会へ続く長蛇の列を見ることができました。芸術への関心の高さが感じられました。

留学で気づいたことや得たものなどを通して自らを高めると共に、そういった経験をこれからさらに発信していきたいです。



県大に以前留学していた憧れのアーニャ(右から2番目)と。



とても仲良くなることのできたアニータと演奏しているとき。

ボアジチ大学協定締結 10周年記念の 特別講義を開催



握手を交わすメフメット・オズカン学長(左)と鬼頭宏学長(日本平ホテルの庭園にて)

静岡県立大学は、2006年11月にボアジチ大学（トルコ共和国）と交流協定を締結し、今年度協定締結10周年を迎えました。これを記念し、1月20日、ボアジチ大学から講師を招き特別講義を行いました。

講義に先立ち、佐藤真千子講師（国際交流委員ボアジチ大学担当）による進行で、本学の奥村副学長・国際交流委員長、六鹿茂

夫広域ヨーロッパ研究センター長、ボアジチ大学のメフメット・オズカン学長、タネル・ビルギチ学長補佐・国際交流委員長が挨拶したほか、静岡県立大学テレビが制作した、これまでの10年間の両大学の留学生の体験を映像化した動画が上映されました。

特別講義では、ボアジチ大学歴史学部のセルチュク・エセンベル名誉教授が、「グローバルな歴史的

視点から見た日本・トルコ関係」と題し講演し、19世紀の日本とトルコの西洋文明の受容による近代化の流れの違いについて解説しました。同大学国際関係学部のギュンクト教授は「中東の何が悪いのか？—不確実性がもたらすトルコの試練」と題し、近年の地域情勢に対してトルコが従来の自立的外交から方針転換したことについて講義しました。

活躍する卒業生

The graduate who plays an active part



お名前 尾崎 紘史さん

卒業学部 看護学研究科
(2012年3月卒業)

勤務先 静岡県立こころの医療センター

Q1. 現在のお仕事について教えてください。

静岡市内にある精神科で勤務しています。主な仕事は、入院されている患者さんの日常生活援助（食事・入浴・配薬等）を行ったり、より良い退院後の生活ができるように患者さんと交え他職種とともに検討したりしています。精神科の患者さんは、社会生活に疲労を感じ

ている方も多いです。そんな方々から退院される時に、「あの言葉が支えになったよ」と言っていただくと、看護師でよかったと感じます。

Q2. 大学生生活（ゼミやサークル）で印象に残っていること、今のお仕事に影響を与えたことは何かありますか？

地震防災についての量的研究を行いました。アンケートを行うために、市役所・社会協議会・公民館等を訪れ担当者にアポイントを取り、論文のプレゼンを行いました。多くの方に出会い、ご協力いただいたこと、研究データが自分の足で手に入れた生のデータであること、その経験すべてが一番印象に残っています。

Q3. 静岡県立大学に入学してよかったと思うことはありますか？

大学卒業後すぐに大学院へ進学しました。その理由は、研究テーマであった地震防災にあります。静岡は防災に対して非常に力を入れてい

ます。そう言った特徴ある地域を対象に研究をし、その地域と交流のある静岡県立大学で学びたいと考えていました。研究を行うにあたり、専門知識を持った恩師に出会い、研究論文を書き上げたことが入学・修了できてよかったことです。

Q4. 今後の目標について教えてください。

今年で看護師5年目になり、院内研究を予定しています。病棟で業務をする中で感じていた疑問を解決できる良い機会になります。大学院生活で学んだ知識、論文の探し方や読み方を最大限発揮し、研究をしていきたいと思っています。

Q5. 在学生にメッセージをお願いします。

大学は、人から教えてもらう知識よりも自分で学び自分の力で知識を増やすところだと思います。ある事象に対して真剣に考えること、物事に対してなぜという姿勢で考えることが重要だと思います。また、同級生と学ぶことを通して、親睦を深め、自分の財産にしてください。



経営情報学部 経営情報学科

国保祥子 講師

先生が取り組まれている研究について、また先生の研究から見る私たちの社会についてお聞かせください。

社会的課題の解決と事業としての持続性を両立させるソーシャル・ビジネスを研究しています。世の中の困りごとは、対価をとれる部分は営利企業が事業として、とれない部分は行政機関が公共サービスとして対応していますが、事業化できる場所は事業として対処したほうが社会全体として限りある資源（人や資金等）を効率的に活用することができます。大学時代のボランティア経験で非営利組織の限界を感じたことと、卒業後の会社員時代に営利組織の限界を感じたことから、両者のメリットを最大化できる組織の在り方がないものだろうかと考え始めたことが、私の研究のきっかけとなっています。

取り組まれている「育休プチMBA」についてお聞かせください。

現在の日本では一般的に、子育てをしながら働くことに職場が賛同してくれるかという

不安から、出産を機に働き続けることを選ばない女性が多いと考えています。企業経営側としては、業務に穴をあけてはならないという責任感から育休復帰者を重要なポストに置くことをためらいがちですが、一方で社内の限られた人材をどう活用していくかが課題となっています。そこで、育休取得者を対象とした育休プチMBAを実施しています。限られた時間でどのような働き方をすれば成果を出すことが可能か、子育てで生じる「できない」をどうカバーするかを、上司の立場に立って考えることで、仕事と子育てを可能にする思考を育休取得者が自ら鍛えるのです。育休プチMBAを監修する株式会社ワークシフト研究所（県大発ベンチャー第4号認定）では、社内の労働時間に制約のある人材のマネジメント方法を学ぶ企業経営者向けのプログラムも実施しています。育休復帰者の業務に対する理解を促すとともに行動を適切に評価することでモチベーションを上げ、誰でも能力を発揮できる職場づくりを目指しています。こうして育休取得者と企業経営側の両者が互いの立場を考え、行動していくことは育休取得者に限らず全ての人が恩恵を受ける職場環境の改善にも一躍かっているのです。実際、この育休プチMBAによって、

育休取得の前より上司や同僚との関係が良くなったという声が寄せられています。

育休を取り上げると女性にばかり目が行きがちですが、私はあくまで経営者の目線として「限りある資源（人や資金）」をどう効率的に活用することができるかを考えています。男性の育休や、男女問わず介護、病気や怪我など、働く時間に制約を持ちながら働くことは誰にでもあり得ます。多様性を生かすことで人材の可能性を広げ活躍できる職場が増えれば、社会全体が良い方向に変わっていくと考えています。

ゼミで設立された「フューチャーセンター」とは？

私が静岡県立大学に赴任した2010年から、オープンゼミという学生が企画と運営を行う、学生と社会人が共に学ぶ場を開催していました。これは私が大学に赴任した当初に感じた、「大学生が社会人と接する機会がない」という問題意識から始まったものです。ゼミの学生にとって大きな学びとなったのはもちろん、地域の参加者からも「学生の意見は新鮮」、「抱えていた課題を違う角度で考えられるようになった」と学生の

存在を見直す声が寄せられました。そのような中「フューチャーセンター」という、単独では解決できない課題について立場の垣根を越えた関係のなかで創造的な対話を図る場を、私の研究室に作ってみたいかという声が上がったのが発端となります。私のゼミのフューチャーセンターは、学生が主体となって運営しています。学生の強みを生かすポイントとしては、ゼロベース思考であること。つまり、何か新しいアイデアを検討するときに資金がないなどの「できない理由」をあげるのではなく、もともと資金がない中でも「どうしたらできるか」を考えることに発想をめぐらせることで斬新なアイデアが生まれるのです。そしてもう一つのポイントは未来思考の議論ができること。学生という、これから社会に出て何年も活躍するであろう人を目



笑顔が絶えないゼミ風景

の前にすると、目の前の制約よりもあるべき未来や実現したい未来を描いてから実際に何をすべきかという考え方で話が進むのでネガティブ思考を避けて建設的な議論ができる

傾向があります。こうした学生が持つ強みを生かし、学生と社会人がつながりを持ちながら互いに物事に対する認識の幅を広げていける場が「フューチャーセンター」です。

STUDENT VOICE



経営情報学部 3年
西村 信哉さん

私がこの研究室を選んだ理由は、組織について学びたいと思ったからです。組織には様々な考え方、個性、価値観を持った人がいます。その人たちをどのようにまとめ上げ、組織として機能させられるのかと考えることがきっかけです。これまで様々な組織に所属してきましたが、運営などが上手に回らないことも多かったです。そこから組織はどう動かせばよいか考えるようになりました。

もう一つの理由は、国保先生の考え方に共感したからです。理論を実践に使えるようにという先生の考え方にはとても感銘を受けました。そしてゼミの場でもある「フューチャーセンター」では、先生以外の社会人の方々とお話や相談ができます。自分の視野が広がるだけでなく、学生という枠を飛び越えて挑戦をさせてもらえる場があることは大きな魅力です。



経営情報学部 3年
鈴木 菜都美さん

私自身が将来、育児と仕事を両立する生き方を選択したいと思い、「育児と仕事の両立について」という研究テーマを設定しました。研究を始める前は、両立ができる人はすごい人だけだろうなと思っていました。しかし、一般の社会人へのヒアリング調査などを通して、柔軟に物事を考える「発想力」が両立の一番のカギであることがわかりました。ある家庭を持つ男性は職場から海外赴任を言い渡され、仕事を持つ妻を日本に残し子どもを連れて海外へ赴任し育児をするという選択をしました。このヒアリングから、相手との信頼関係のもと何事も発想力を豊かにすることで、新しい選択肢が開けるのだと実感しました。ヒアリング調査の経験を生かし、将来両立したいと考える女子大学生を対象としたLife Plan Future Centerを実施しました。発想力次第で課題は解決できることを、育児と仕事の両立を望む方に更に発信していきたいです。



国保 祥子 Akiko, KOKUBO

経営学博士（慶應義塾大学・2011年）。静岡県立大学経営情報学部経営情報学科講師兼経営情報イノベーション研究科講師。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科非常勤講師、早稲田大学WBS研究センター招聘研究員、上智大学非常勤講師。学部卒業後、外資系IT企業での業務変革コンサルティング経験を経て、慶應義塾大学大学院経営管理研究科（慶應ビジネススクール）で修士号および博士号を取得。大学院在席中から、ケースメソッド教育法を活用した民間企業や行政機関の経営人材育成プログラムの開発および導入に従事する。慶應義塾大学大学院経営管理研究科特別研究助教を経て2010年に静岡県立大学に赴任し、2011年に地域の社会人と学生が共に地域の課題を検討する「フューチャーセンター」を立ち上げる。2014年より育児休業期間をマネジメント能力開発の機会にする「育休プチMBA勉強会」を主宰、2015年には主に法人向けの研究・教育事業を担う株式会社ワークシフト研究所（静岡県立大学発ベンチャー第4号認定）を共同設立する。

国保研究室
教員1名 学生14名

英語で日本を学ぶ Japanology 授業紹介

平成 28 年度より新規開講科目として、英語で日本を学ぶ、全学部生対象の全学共通科目がスタートしました。茶学などの文化、地域の方言などの言語、環境、産業構造などについて、専門分野ごとに教員が英語で講義します。日本文化や社会を客観的に捉え、英語で説明できるようになることを目指す授業です。

Linguistics: Japanese Dialects 言語学:日本の方言

by 吉村紀子(言語コミュニケーション研究センター長)

吉村センター長による日本語学についての講義です。英語の文法にはない助詞「は」「が」「の」の構造と意味について、例文を用いてわかりやすく解説。例えば、「社長は私です」の文を、Syachou-wa-watashi-desu.とWatashi-ga-syachou-desu. の比較を通して意味

や使用場面が異なることがわかります。そして九州の方言では「私の社長です」と言うことも紹介。日本の言語・方言についてひとつひとつ理解でき、英語の例文も交えながら楽しく学べます。



Healthy Human Longevity: Medicine and Biotechnology 健康長寿:薬とバイオ

by 小林裕和(食品栄養環境科学研究院 教授)

世界の寿命分布から話を始め、静岡県は世界でトップクラスの健康長寿地域であることに言及します。そこで、健康寿命に結びつく要因は何かと考えてみます。自然環境、食文化、高い医療技術や公衆衛生、健康に対する意識、その他あり得ます。つぎに、静岡県の農

水産物や医療産業の社会貢献を考えてみます。さらに、本学では、薬学と食品栄養環境科学を統合し「大学院薬食生命科学総合学府」を発足しました。そこでの「食薬融合」研究や社会貢献を紹介します。



キャリア支援センターだより

1月18日に「ブラック企業・ブラックバイトとは」、1月19日には「求人票から読み取れる情報は？」をテーマに、「ワークルール講座～求人票の読み方～」を開催しました。学生に気軽に参加してもらうため、昼休みに昼食を食べながら受講できる講座としました。講座では、社会保険労務士で一般社団法人ワークルール理事の鯉淵氏から、これから就職活動する学生向けに、企業情報の調べ方、求人票を見るときに注意点、ブラックバイトの実態などをお話いただきました。インターネットの企業情報だけに惑わされない、労働条件は書面で説明を受ける、困ったら一人で悩まず相談!など、社会人となって

から(学生時代のアルバイトにも)役立つ多くのことを学べる講座でした。

3月以降も就職活動等に役立つ講座を開催予定です。詳しくはキャリア支援センターまでお気軽にお問い合わせください。





産学民官連携

本学が取り組む地域貢献、産学民官連携活動による研究成果やイベント等の情報をご紹介します。

ムセイオン静岡セミナー ～地域とつながるミーティングin草薙～ 地域のミリョクがまとめてわかる!

現在、草薙では地域・学校・文化施設等が連携するまちづくりに取り組んでいます。今回はムセイオン静岡が中心となり、今年度初の試みとしてセミナーを開催しました。こどものうちから文化芸術に触れる機会を増やし、草薙の歴史や文化にまつわる話、各機関が地域に出て行き積極的に関わる取組事例を発表。また地域の人々の活動として、「有度ハロウィン」「草薙大龍勢」「つながるくさなぎ」をご紹介します。来場者からは地域活動の

活発化に積極的に関わってみたいという意見も出て、好評なうちに終了となりました。

これからもムセイオン静岡は関係機関と地域が連携し、文教地区という特色を生かした文化教育の充実、地域に根差した活動の推進に一層努めていきます。



地域の方々の取組発表の様子

ムセイオン静岡

ムセイオン静岡は7つの教育文化機関（静岡県立大学・静岡県立美術館・静岡県立中央図書館・県埋蔵文化財センター・SPAC・グランシップ・ふじのくに地球環境史ミュージアム）による自主協働事業です。

県立大発ベンチャー「けんだいがかり」が第25回静岡県ニュービジネス大賞を受賞 「唾液から乳がんリスクを検出」

薬学部豊岡利正教授の研究成果を事業化した県立大発ベンチャー株式会社けんだいがかりの「唾液を用いた乳がんの初発・再発転移がんリスク検出システムと検出キット製品化」が同賞を受賞しました。

本賞は、新規事業の創造にチャレンジし、ビジネスチャンスを的確に捉

え、新たな事業展開を図り発展している企業・団体に贈られる賞で、応募があった15件の中から、新規性や市場性などのポイントを審査、選考されました。今後、全国大会に進む予定です。



株式会社けんだいがかり 木苗貴秀副社長(中央)

静岡銀行と静岡県立大学との間で連携協定を締結

12月21日、静岡県立大学谷田キャンパスにおいて「静岡県立大学と株式会社静岡銀行との地方創生に係る相互協力及び連携に関する協定」の締結式を行いました。

この協定は、静岡銀行と静岡県立大学が相互に協力・連携し、それぞれの持つ資源を活用した協働を行い、地方創生を実現し、地域の一層の発展を目指すものです。

これまで、両者は、草薙地域のまちづくりや、イベントの実施などにおいて協力し、地域に根ざした活動を進めてきました。

今後、協力関係を一層強め、両者が持つ強みを地方創生に活かすため、連携協定を締結することとしました。

静岡県立大学では、地域貢献を積極的に進め、地域課題の解決に協力をしてまいります。



はばたき寄金からのお知らせ

「学生スピーチコンテスト」「第20回学生文芸コンクール」の開催

剣祭2日目の10月30日に、はばたき寄金主催の「学生スピーチコンテスト」の審査と「第20回学生文芸コンクール」の表彰式が行われました。

学生スピーチコンテスト(英語の部)に2人のエントリーがあり、当日スピーチが行われました。

学生文芸コンクールには、ノンフィクション1篇、詩16件、俳句12件(60句)、イラスト5点、写真2点の応募がありました。



記念撮影



学生スピーチコンテストの審査

学生スピーチコンテスト受賞結果

部門	受賞	名前	所属	作品名
学生スピーチコンテスト	優秀賞	増田 哲也	国際関係学部	Society and myself in 30 years.
	佳作	西川 慶	経営情報学部	Who knows?

第20回学生文芸コンクール受賞結果

部門	受賞	名前	所属	作品名
ノンフィクション	優秀賞	宮崎 一城	国際関係学部	癡癡就活日記
	最優秀賞	高橋 瞳	薬学部	chewing
詩	優秀賞	宮崎 一城	国際関係学部	いかないで
	優秀賞	山下 順弘	薬食生命科学総合学府	音
	佳作	進藤 卓弥	薬学部	星月夜
	佳作	山本 聖也	国際関係学部	既読
	佳作	稲垣 僚	薬食生命科学総合学府	揺蕩う 君へ
	努力賞	南 哲平	薬学部	ペダル
	努力賞	山本 啓生	国際関係学部	箱
	俳句	最優秀賞	高橋 瞳	薬学部
優秀賞		小林 勇太	薬食生命科学総合学府	すれ違い
優秀賞		山田 朋宏	薬学部	下校
佳作		上原 祐也	薬食生命科学総合学府	再開発
佳作		南 哲平	薬学部	湖と紅葉、灯籠流し
努力賞		柳澤 拓摩	薬学部	失恋
努力賞		米田 和広	薬食生命科学総合学府	初デート
イラスト	佳作	水野 春花	薬食生命科学総合学府	雨のち晴れ
	佳作	中村 千紗都	食品栄養科学部	黄泉路
	佳作	牧野 文香	国際関係学部	ハナミソカサゴ
	努力賞	近藤 絢音	国際関係学部	まどろみ
写真	佳作	坂本 実咲	国際関係学部	こんにちは!
	佳作	近藤 絢音	国際関係学部	黄金色の季節

第5回剣祭イメージキャラクターの募集

剣祭イメージキャラクターには36点の応募があり、第一次選考を通過した10作品を、剣祭当日に大学正門付近に展示し、来場者による人気投票も加味して、審査した結果、最優秀賞は該当がなく、優秀賞2件と佳作3件が選ばれました。

部門	受賞	名前	所属	キャラクター名
剣祭イメージキャラクター	優秀賞	小林 勇太	薬食生命科学総合学府	つるパン
	優秀賞	近藤 絢音	国際関係学部	つるぎつね
	佳作	内野 皓平	薬食生命科学総合学府	ケンちゃん
	佳作	進藤 卓弥	薬学部	つるぎん
	佳作	山田 朋宏	薬学部	つるっこ

皆様からの基金へのご協力、御礼申し上げます。(敬省略、寄付の順)

(平成28年2月～平成28年3月分)

園田明人、奥村昭博、津富宏、武田修一、奥園秀樹、水野かほる、寺尾康、澤田敬人、鬼頭宏、佐藤真千子、林芳樹、澤崎宏一、高畑幸、鉄道ターミナル愛好会、賀川義之、新井映子

(平成28年4月～平成29年1月分)

石川義道、坂田昌弘、小針進、松浦博、中村秀実、杉山真澄、奥直人、西野勝明、小田文宏、創星会、井口真彦、佐藤知久、小林裕和、吉村紀子、野秋貴靖、今井康之、渡邊聡、奥村昭博、前山亮吉、田中紫茉莉、奥園秀樹、板井茂、柏倉康治、賀川義之、津富宏、斉藤和巳、奈倉京子、高畑幸、増田修一、島村裕子、石井康子、佐藤真千子、木村晋一郎、小林公子、清水淳次、内田浩志、馬場美康、澤田敬人、石川准、天野政紀、深江久代、眞鍋敬、鈴木さやか、鈴木亜紀子、森潔、北野嘉章、鬼頭宏、金澤寛明、石川吉伸

図書館 だより

学生の学習環境整備(ラーニング・コモンズ)

附属図書館では、平成 23(2011)年にラーニング・コモンズに向けた図書館リニューアルを行いました。館内各フロアの利用について学習機能別ゾーニングプランを立て、学生の多様な学習形態に対応するスペース整備のため、新たにセミナールームや LC フロアを設置するとともに、椅子や机、

テーブル、ホワイトボード、スクリーン、情報機器等の充実を図りました。館内どこでも利用できる貸出用ノートパソコンも 20 台に増やしました。

現在、館内では自ら学習環境を選択し、閲覧室やグループ学習室、キャレル等で長時間滞在して学習に取り組む姿が多く見られます。セミナールー

ムや LC フロアでは、話し合い学習やプレゼンテーション機器を用いた学習会(ゼミや講演会、図書館活用講座、オーダーメイド講習会、シリーズ図書館講座)が開催され、快適な学習空間としての利用が定着しています。

あなたの物語は、図書館から始まります。ご利用を心よりお待ちしております。



私の一冊の本



著者:夏目漱石
出版社:角川文庫
発行:2004年5月
請求記号:913.6 N58
ISBN:978-4-04-100120-2

「私の一冊の本」というタイトルで原稿を書くにあたり、どの本を紹介しようかと悩んでいた私は、何年前前の高校生との座談会の席で、高校生から「先生は高校時代にどのような本を読みましたか?」と質問され、「夏目漱石」と答えたことを思い出しました。高校時代、夏目漱石に惹かれ、「坊ちゃん」「草枕」「三四郎」「道草」「それから」「門」「ココロ」・・・と漱石の作品ばかりを読んでいた時期がありました。その中でも「ココロ」は特に印象深く記憶に残ってい

紹介者 小林公子教授(食品栄養科学部)
紹介図書 ココロ

ます。そこで、この年末年始の休暇中に「ココロ」を読み返してみました。折しも、昨年は漱石没後 100 年、そして今年が漱石生誕 150 年の節目の年であり、漱石の作品や生涯が様々な場でクローズアップされ、さらには AI (人工知能) の技術を使った「漱石アンドロイド」が誕生したことがメディアで紹介されていました。100 年という時間を越えて、また、日本だけではなく世界の多くの人々に漱石文学は読み継がれています。漱石が没した年齢をすでに越えてしまった私が、今さら「ココロ」を読んだ感想をここに書くのも気恥ずかしく、また、うまく言葉で表せそうにはないのですが、読み終えた後はやはり胸が熱くなりました。高校生だった自分が、漱石の作品のどこに魅力を感じながら読んでいたのか、今となっては思い出すことができません。「ココロ」以外の漱石の作品についても読み返してみたいと思っています。

さて、私は「人類遺伝学」を専門としているのですが、日本で初めて「遺伝」という言葉

を使ったのは、漱石だといわれています。漱石は、当時遺伝学研究が盛んであったロンドン大学に留学しており、帰国して間もない 1906 年に「趣味の遺伝」という短編小説を書いています。この小説の主人公である「余」の友人がある女性に一目惚れをするのですが、「余」は「先祖の恋愛感情がその子孫に遺伝するのではないか」という説をたて、二人の祖父母が恋仲であったということ突き止めるという話が軸になっています。文中に「元来、余は、医者でも生物学者でもなく遺伝という問題に関しての知識はないが、遺伝は余の好奇心を挑発するので、メンデルズムやワイスマン等の遺伝理論を調べてみた・・・」というくだりがあります。当時の漱石も遺伝学に興味・関心を持ち、現在の遺伝学のトピックスのひとつである、メンデルの法則では説明できない新しい遺伝学「エピジェネティクス」の出現をはからずも予知していたのかもしれない。「あっぱれ夏目漱石」と思わずにはられません。



受賞おめでとうございます

学生フォトコンテスト優秀賞 受賞

国連（国際連合）広報センターおよび上智大学主催の「わたしが見た、持続可能な開発目標（SDGs）」学生フォトコンテストで、本学国際関係学部4年の山川侘哉さんの作品が優秀賞に輝きました。

2015年9月に国連サミットで採択された、2030年までに達成すべき地球規模の課題を掲げた行動計画「持続可能な

開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」。このSDGsをテーマにした本コンテストには、日本をはじめ世界47カ国から622の作品が寄せられ、大賞（外務大臣賞）1点、優秀賞3点、特別賞（Dior ウーマン・エンパワーメント賞）1点、入賞10点が選ばれました。

山川さんの作品をはじめとする受賞作品の展示会を3月中旬から4月中旬まで谷田キャンパスで行う予定です。

岩崎ゼミ生が「知財活用アイデア全国大会2016」で最優秀賞(全国1位)、優秀賞(2位)のダブル受賞



12月10日に東京(富士通株式会社本社)で開催された「知財活用アイデア全国大会2016」において、経営情報学部 岩崎邦彦教授のゼミの2グループ「ホッていーず」と「チームおもてなし」が、11月18日の静岡県大会を経て、みごと最優秀賞(全国1位)、優秀賞(2位)のダブル受賞を果たしました。

この大会は、全国の大学生が、大手企業の開放特許を活用し、これまでの市場にない斬新な商品アイデアを創出するものです。大会には、全国の大学から100を超えるチームが参加。全国大会には、各地の予選大会を通過した13チームが出場しました。
※受賞チームの学生氏名は右ページをご覧ください。



笠原ゼミ生がIBインカレ2016で日本語部門『最優秀賞』を受賞

12月18日に明治大学にて開催された国際ビジネス研究インターカレッジ（通称IBインカレ）にて、経営情報学部の笠原民子講師のゼミ（国際経営研究室）の学生、石川真梨子さん、中村美月さん、藤井允さんが、日本語論文部門『最優秀賞』および英語部門・日本語部門併せて『総合5位』を受賞しました。

IBインカレは、国際経営を専攻する有志の大学により運営されている学術論文大会であり、今年は合計16大学28チーム（英語部門10チーム、日本語部門18チーム）が参加しました。笠原ゼミは、日

本語論文部門18チーム中、慶應義塾大学、南山大学、明治大学、立教大学等の17チームを抑えて、『最優秀賞』を受賞しました。受賞論文タイトルは、『トップ・マネジメント・チームのダイバーシティと企業業績との関係性—CEOパワーの調整効果の検証—』です。



教員・学生の受賞

各受賞の詳細については本学公式サイトでのニュース&トピックスからご覧いただけます。

	受賞者名	所属	受賞名
教員	紅林佑希 助教	薬学部	第18回日本感染症医薬品協会 奨励賞
	江上寛通 講師	薬学部	有機合成化学協会 2016年東レ研究企画賞
学生	石田裕文	薬食生命科学総合学府	静岡実験動物研究会平成28年度大会 第44回研究発表会 林栄一賞
	王 齊	薬食生命科学総合学府	The 9th International PCB Workshop Special Award
	内海未央	薬食生命科学総合学府	第32回茶学術研究会講演会・第13回日本カテキン学会 年次学術大会 合同大会 2016 研究奨励賞
	横井茉莉	薬学部	第54回日本癌治療学会学術集会 優秀演題賞
	清水果奈	薬食生命科学総合学府	第11回日本禁煙科学会学術総会 優秀演題賞
	仁平拓也	薬食生命科学総合学府	第3回 薬食国際カンファレンス ポスター賞
	長尾芳大	薬食生命科学総合学府	第47回中部化学関係学協会支部連合秋季大会 優秀発表賞
	井出貴文	薬食生命科学総合学府	第6回 CSJ 化学フェスタ 学生ポスター発表賞
	内野皓平	薬食生命科学総合学府	日本環境変異原学会第45回大会 オックスフォードジャーナル賞
	西尾優汰	薬食生命科学総合学府	27th International Symposium on Pharmaceutical and Biomedical Analysis (PBA 2016) 国際シンポジウム 若手ポスター賞
	井上瑞樹	薬食生命科学総合学府	第71回日本栄養・食糧学会中部支部大会 優秀発表賞
	鈴木千尋	薬学部	2016年糖鎖科学中部拠点 奨励賞
	若林弘樹	薬食生命科学総合学府	日本病院薬剤師会東海ブロック・ 日本薬学会東海支部 合同学術大会 2016 ベストプレゼン賞
	天野七菜	薬学部	
	塚田遼太	薬学部	
	衣斐 遥・成田雄大	薬食生命科学総合学府	第21回静岡健康・長寿学術フォーラム Poster Presentation Award
	小川原慎太郎	薬学部	第3回薬食国際カンファレンス Poster Award
	鈴木麻裕・大槻七海 小泉 蓮・宇田菜美映	経営情報学部	知財活用アイデア全国大会 2016 最優秀賞
白崎 愛・杉山裕音 田森 涼太・常盤有可	経営情報学部	知財活用アイデア全国大会 2016 優秀賞	

※学生の所属は受賞時のものです

教員活動評価における業績優秀者への学長表彰

静岡県立大学では、教員の教育研究活動等の一層の向上を図ることを目的として、教員活動評価を実施しています。12月22日に、2015年度(平成27年度)の教員活動評価における業績優秀者15人に対して、学長表彰を行いました。

学部等	職位	氏名
薬学部/薬学研究院	教授	鈴木 隆
	准教授	轟木 堅一郎
	講師	刀坂 泰史
	助教	砂川 陽一
食品栄養科学部/食品栄養環境科学研究院	教授	熊澤 茂則
	教授	谷 晃
国際関係学部/国際関係学研究所	教授	犬塚 協太
	教授	剣持 久木
経営情報学部/経営情報イノベーション研究科	教授	小針 進
	准教授	西田 在賢
看護学部/看護学研究所	教授	渡邊 貴之
	准教授	荒井 孝子
短期大学部	教授	田中 範佳
	准教授	鶴橋 俊宏
	准教授	林 恵嗣

※職位は受賞時のものです。

平成28年度の寄附金受入れ

本学の教育・研究の充実のため、次の皆様から寄附金をいただきました(奨学寄附金を除く)。心より感謝申し上げます。

- 本庶 佑 様
- エーザイ株式会社 様
- 参天製薬株式会社 様
- 静岡商工会議所 新産業開発振興機構 様

教員人事

◆採用

平成29年1月1日付

大内 仁志	薬学部薬学科	助教
-------	--------	----

◆退職

平成28年11月30日付

川崎 洋平	薬学部薬学科	講師
-------	--------	----

●教員昇任

平成28年12月1日付

江上 寛通	薬学部薬科学科	講師
-------	---------	----

はばたき

134号 2017年3月1日発行
発行元/静岡県立大学広報委員会

- 静岡県立大学広報企画室
- 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田5-2
- TEL/054-264-5130 ■FAX/054-264-5099
- E-mail/koho@u-shizuoka-ken.ac.jp
- URL <http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

はばたき読者アンケート

今後の広報誌はばたきをより充実したものにするため、読者の皆さまの声をお聞きしたく広報誌はばたき読者アンケートを実施しています。より多くのご意見・ご感想を広報誌に反映させていきたいと考えておりますので、ご回答のご協力をお願いいたします。以下のURLまたはQRコードから回答フォームへアクセスしてください。どうぞよろしくお願いいたします。

https://req.qubo.jp/u_shizuoka/form/habatagi



求む旅人。

ドライブのある人生にしよう。

免許をとってつながる、新しい世界。



静鉄自動車学校は、平成28年に創立55周年を迎え、卒業生総数は80,000人を超える、静岡県内でも有数の歴史ある自動車学校です。

また、初心運転者事故率においても、静岡県内でトップクラスの低さを誇っています。

—— はばたき限定特典 ——

お申込み時に当広報誌をお持ちいただいた方に、**QUOカード（10,000円分）をプレゼント!**

静岡県立大学から無料送迎バスで約5分。
静岡県立大学から一番近い自動車学校です。



公認

静鉄自動車学校

0120-450-335

静岡市清水区馬走北5-1(イオン清水店さん隣)

<http://www.shizutetsu-school.jp>



海にいつでも。人にときめきも。

静鉄グループ

INFORMATION

平成28年度 学位記授与式 (卒業式・修了式)

平成28年度の学位記授与式(卒業式・修了式)を次の日程で開催いたします。

開催日 平成29年3月17日(金)

開式 午前10時

開場 午前9時10分

着席 午前9時40分

会場 グランシップ大ホール 海

静岡市駿河区池田79-4

(最寄駅 JR東静岡駅 徒歩5分)

保護者席をご用意しておりますので、
ぜひご列席ください。

問い合わせ先 TEL 054-264-5009(学生室)

平成29年度 入学式

平成29年度の入学式を次の日程で開催いたします。

開催日 平成29年4月7日(金)

開式 午前10時

開場 午前9時10分

着席 午前9時40分

会場 グランシップ大ホール 海

静岡市駿河区池田79-4

(最寄駅 JR東静岡駅 徒歩5分)

保護者席をご用意しておりますので、
ぜひご列席ください。

問い合わせ先 TEL 054-264-5009(学生室)